

# 登別の鬼は福を呼ぶ

2010年 鬼まつり



1月23日(土)、鷲別・若草、幌別、登別地区の3地区で、『鬼まつり』(同実行委員会主催)が行われました。

この日は、色とりどりの鬼に扮した地元の小手経営者や後継者、市役所・団体職員、専門学校生などによる『豆まき隊』が、保育所や幼稚園、個人宅、商店街、飲食店、大型施設などを訪問し、厄払いとともに商売繁盛を願ったほか、各地区のメイン会場で趣向を凝らした楽しい催しが繰り広げられていました。

幌別会場のらいば公園では、湯鬼神舞や口上・福まき、餅つき・振る舞いなどが行われたほか、夕方には『NPO法人ライフサポート』によるアイスクャンドルの点灯や子ども花火大会などがまつりを盛り上げ、参加者は登別ならではの少し早めの節分を楽しんでいました。

## 環境保全の大切さを学ぶ

環境講演会

1月20日(木)、クリンクルセンターで環境講演会(市主催)が開催され、市民約90人が参加しました。

この催しは、環境保全の大切さを伝えるため毎年開催しており、今年も、NPO法人ねおすの宮本秀樹(みやもとひでき)さんを講師に招き、市内に生息するといわれる貴重種104種を、どのように保護や保全を進めるかをテーマに講演をしました。

宮本さんは、登別の海や山、川、湿原とバラエティーに富んだ地勢を背景に「まちの近くでオオワシやハヤブサ、ハチクマなどが見られるところは珍しく登別は面白い」と話す反面「普段目にする動植物が実は絶滅危惧種である可能性がある」と、「動植物の絶滅速度は過去の100倍以上である」と警告するなど参加者に環境を守ることの大切さを唱えました。



## パウダースノーと温泉を満喫

スキー修学旅行来訪



1月14日(木)からスキー修学旅行生がサンライバスキー場に来訪しています。

サンライバスキー場は、名湯登別温泉の奥座敷にあるゲレンデとして、初級者から上級者まで楽しめる7つのコースを備え、毎年、九州や沖縄などを中心に修学旅行生が訪れており、今年も、3月までに道内を含め16校、約3千人の利用が予定されています。

1月21日(木)・22日(金)、2日間の日程でゲレンデを訪れた佐賀県立白石高校(160人)のスキー学習では、インストラクターの丁寧な指導を受けながら、2日目のリフトに乗っての滑降を目指して、斜面の登り方やハの字滑降などの基礎にチャレンジ。時折、転びながらもスキーの楽しさを体感し、北海道ならではのパウダースノーを満喫していました。